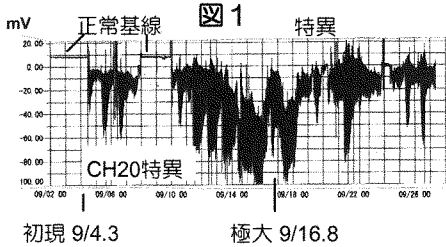


PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

続報 No.338

2022.09/27 (火曜) 14:00 発表

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254



初現 9/4.3 極大 9/16.8
CH21=9/3.3~ CH20=9/4.3~特異出現
9/16.8極大認識 図1はCH20 縦軸電圧値
を±100mV (通常表示は±15mV) にして
全体を表しているため正常基線が糸状になっ
ています

10月11日±2 発生の可能性検討中 ひとつの可能性 CH20・21 等特異・CH26-PBF =10/5±終息するか要確認

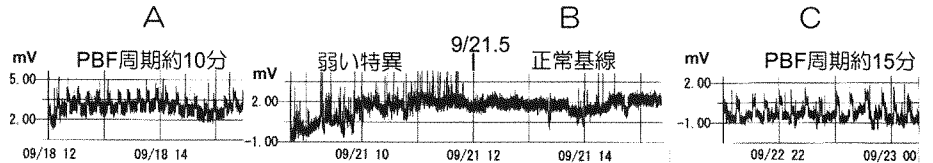
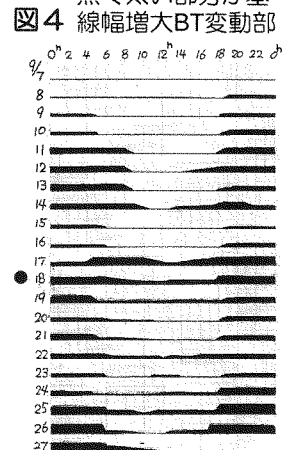


図2 CH26-PBFは約10分周期で継続 (A) したが、9/21.5
から弱い特異も消え一旦正常基線を記録 (B)。その後
再びPBFが出現したが周期は約15分に変化 (C)

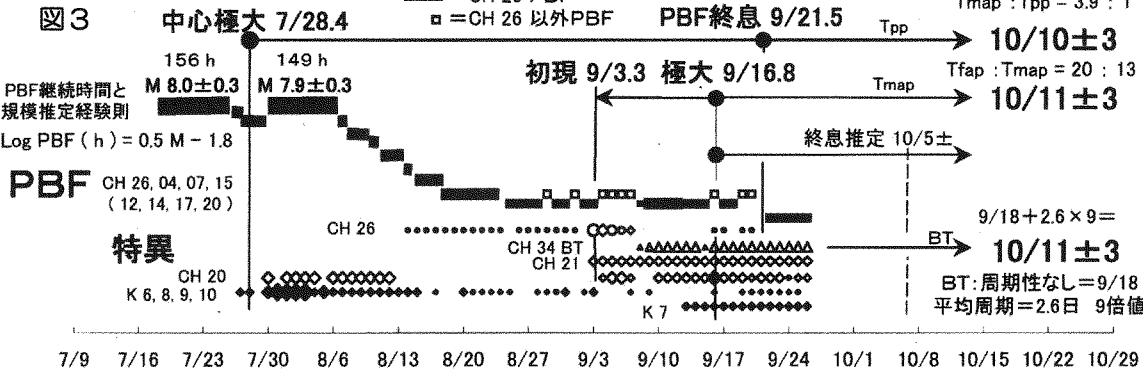
9/8からCH34にBT
CH34-BTスケッチ
黒く太い部分が基
線幅増大BT変動部



9/27 12時迄のデータ
●印=周期性無いピーク認識 9/18
平均周期=2.6日 9倍値使用
9/18+2.6×9=10/11±3
現状認識まだ決定ではありません

Stage 25 の 14 項目の
変動=7/29±3 を示す

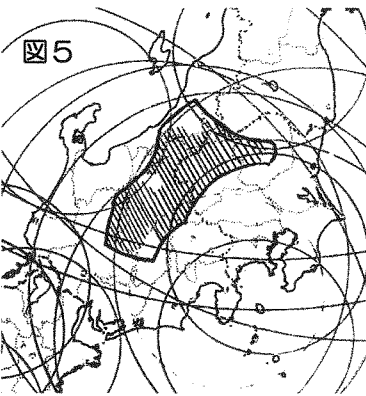
Earthquake Precursor Signal No.1778 Stage-26 2022



9/3から八ヶ岳のCH21に特異出現。9/4からCH20にも出現 (図1 参照) CH20,21は同設定で
受信機が異なる。同じ現象を捉えている認識。極大は9/16.8認識。初現をCH21の9/3.3とし、
極大を9/16.8認識とした場合、10/11±3発生の可能性が示唆されます。またCH26-PBFは周期約10分前後で継続して
いましたが、9/3から特異変動が出現し一旦PBFは消えました。その後PBFは断続的に変化し、9/21.5に弱い特異も終
息し、一旦正常基線を記録しました。CH26の特異もなくPBFも無い正常基線は7月初旬以来です。CH26はCH21・20

の特異出現時期から変化しているように見えます。
CH26のPBFは9/21.5の静穏化後、再び出現しましたが、周期は約15分に変化。このことから、CH26の
長く継続したPBFは9/21.5に終息し、現在出現しているPBFは9/16.8極大認識の特異に関係して出現してい
る可能性も考えられます。仮にこの認識が正しい場合には、PBF極大=7/28.4 終息=9/21.5から10/10±3発
生の可能性が示唆されます。また10/11±2発生を仮定
しますと、CH20,21等特異並びにCH26PBFは10/5±1
に終息する可能性が計算されます。

図4は9/8から八ヶ岳のCH34に出現した基線幅
増大BTの日々の変化スケッチです。BTは長く出現した
日を小ピークとし、周期的に出現したBTの平均周期の
6倍値又は9倍値を周期性ない小ピークに加算すると
発生時期を示す経験則があります。これからは10/11±
3の可能性有。10/11±2発生推定が正しいか否かは10/5
±1に前兆変動が終息するか否かで決定できます。



●推定領域：図5太線内域
斜線域=可能性考え易い
参考推定領域

※推定領域は図5の太線領域
内で以前と変わりませんが、火
山近傍領域 (斜線域) は八ヶ
岳北側領域の可能性が考え易
いことから推定領域内南西側
を入れておりました。しかし根
拠が若干薄弱なため、推定領
域内南西側火山 (御嶽・乗
鞍・焼岳) 近傍領域も含め
参考推定領域として斜線で示
しました。

- 推定規模：M8.0±0.3
- 推定時期：10月11日±2 検討中
但し 10/5±に前兆変動終息確認ができた場合
- 地震種：震源浅い地殻地震
- 推定発生時刻：午前9時±2 or 午後6時±3